

創刊号

鶴声会報

発行者/中桐 實 編集/作陽音楽大学鶴声会事務局 岡山県津山市八出1334-1 電話(08682)4-1678番 発行/昭和59年10月1日



ごあいさつ

鶴声会会長

中桐 實

時下、会員の皆様方におかれましては益々ご清祥のことと存じます。諸事情により長い間低迷致しておりました同窓会活動も、三年前より改組し、前役員の方やそのほか多くの方々のご協力を得まして再出発致しました。私はただ岡山県に在住しているからという誠に勝手な因縁をつけられまして、この大役を仰せつかることになりました。他に適任の諸兄が数多くおられる中で心苦しく存じておりますが、かくなる上は微力ながら努力してまいりたい所存でございます。今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

さて、役員組織の見直しから手付けましたこの仕事も、規約の改正、財政再建、幹事会及び総会の確立、連絡事務所設置からいよいよ同窓会館設置にまで至りました。その間幾度も繰り返し返された会合に多くの時間や経済的

犠牲を払って参集されました方々に対し、心より敬意を表し、ぜひ皆様にご紹介致したいと存じます。と同時に大学側のご理解に感謝致します。お陰様で独立独歩の基礎が出来上りました。

来年の再会を約束して帰られ

ます。旧交を暖め、あらためて自分の足元を見直せたり、同窓生の活躍を知り発憤したりとても意義深いものであります。何よりも「なつかしい」ことで感激致します。是非御参加いただきたいと存じます。さらにまた幹事会の定例化を確立致しまして、支部作りを取組んでおります。これは前述の活動を身近なものにしていただくためにも大切なものと考えます。すでに活発に県人会的組織で活動している県もあり、鶴声会の一環組織としてまとめていくには多く



卒業生への便り

作陽学園理事長

松田 英毅

の時間と皆様のご理解とご協力が必要です。さらに一歩一歩前進し、会員の皆様と連絡を密に保ちながら活動できる組織を確立するよう努力を重ねてまいりたいと存じます。おわりに、幹事会をはじめ支部役員の方々は当然のことながら無報酬で、お忙しい仕事の時間をさいてこの活動に取組んでおられます。どうぞ皆様方より暖かい拍手を送っていただきたいと存じます。今後のご協力重ねてお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、お元気で、しうか。作陽音大も創設19年目を迎えています。その間順調に充実して参つています。中村平、堤温、大林秀弥の各先生をはじめ、大学づくりにご尽力いただいた多くの先生方が定年退職されましたが、その後渡邊暁雄先生をはじめすぐれた先生が着任なさり、日々大学教育に力を入れておられます。これまですぐれた演奏家は殆んど津山の人へ来ないため、卒業生の方々は在学中大阪やあるいは東京までも演奏会に行かれた方があったと思います。新学部長着任後は「作陽シリーズコンサート」として多くの素晴らしい演奏会が津山文化センター

あるいは本学で行われるようになりまして。今年の二月にはリヒテルのピアノ演奏会、三月にはテバルデイの音楽公開講座が本学の大講堂で行われ、ホールの聴衆を感動の渦にまきこみました。卒業生の皆さんにとっては夢物語と思われるでしょう。

たいと考えています。また卒業生のレッスン生については作陽に入れるような方法を考えつつあります。未だ具体化していませんが、例えば早くから志望が決つていれば、本学の先生に定期的にもてもらい、合格可能な力をつけるのも一方法だと思えます。

これからは色々な意味で卒業生の皆さんと大学の連がりを太く、密にせねばならないと考えています。よい演奏会の案内、卒業生の希望に応じた再教育、あるいは現在一部の地区で続けているジャン・ミコオ氏の子供の為の公開レッスン等々。卒業生は在学中に得られなかった事、あるいは現在困っている事など本学の力で解決できるものは、どうし申し出て利用して下さい。出来る限りのことはして参り

次に全ての卒業生の願いであった音楽ホールを音大創立二十周年記念事業としていよいよ着工することになっています。日本でトップの吉村順三設計事務所的设计で、オペラも上演可能な八〇〇席のホールです。卒業生も大いに利用してもらいたいものです。大学では卒業生の元気で活躍されている便りを聞くのが一番嬉しい事のひとつです。どうか元気でそれぞれの道にご精進下さい。

功績を記るされた大林・中村・堤の名物三教授も次々と定年退職で学園を去られ、さびしくなりました。そのことにも時の流れを感じるこの頃です。

一方大学には年々立派な先生方が赴任され、今までは違つた活力が満ち満ちているように思われます。

学長先生はしばらく入院しておられましたが、健康をとり戻され六月中旬から又お元気に登学しておられますことは誠によろこばしいことであります。

理事長先生も相変わらずお元気で、学園の運営と教育に全力を傾倒されており、とりわけ学生の教育に対する情熱には我々教師も全く頭のさがる思いがいたします。

ご承知のように昭和五十七年度より音楽学部長として、国際的に著名な指揮者でもある渡邊暁雄先生をお迎えしましたが、この快挙は全国の音楽大学や楽壇で今でも大きな話題になっています。初代の学部長堤先生の提唱による「日本のザルツブルグ津山」がいよいよ本物になりつつあります。



作陽音楽大学の近況について

音楽学部長

今 西 三 典

同窓生の皆さま、お元気でそれぞれの分野でご活躍のこととお慶び申し上げます。

早いもので赴任して既に十二年目を迎えました。その間、大学創設以来、かずかずのご

す。その第一は渡邊学部長の企画による「作陽シリーズコンサート」であります。これは作陽の学生および津山市民の音楽愛好家に、内外の一流の演奏家の演奏や公開講座や講演などをきいていただくものですが、六月で既に十三回を迎えました。今までのプログラムから拾つてみます。ギユットラー(トランペット)前橋汀子(ヴァイオリン)花房晴美(ピアノ)倉田澄子(チェロ)日本フィルハーモニー交響楽団ランキ(ピアノ)藤原浜雄(ヴァイオリン)園田高弘(ピアノ)遠山一行(講演)ルツェルン祝祭管弦楽団 東京プラスアンサンブル ピアノトリオ(久保陽子 弘中孝 岩崎洗)リヒテル(ピアノ)テバルデイ(ソプラノ)シミオナート(メゾソプラノ)船山隆(講演)。以上のような当第一級の人たちが作陽と津山を訪れました。

この企画は続けられるのです。

これからのプログラムのうちからペーターシュライヤー(テノール)アンドラーシュ・シフ(ピアノ)ベルリンフィル木管八重奏団などの来学をお伝えしておきます。

第二は本格的なオペラ「フィガロの結婚」が上演されたことでしょうか。学部長直轄の「公演研究所」が発足し、その機構の中に「オペラ研究室」が設置されました。レニツケ教授の指導によるこの研究室の本格的な旗揚げ公演として、去る六月十三日に津山文化センターに千名をこえる聴衆を迎えて上演され、大好評を博しました。このような本格的オペラが学内で上演できることが大学の永年の夢でしたが、それが現実のものとなるうとじています。このことが第三の快挙だと思えます。卒業生が渴望しながら「トタンホール」に甘んじたその悲願がいよいよ実現されようとしています。八百席の中ホールですがステージはオペラ上演可能が条件であり、勿論オケピットも立派なものになる予定です。これから恐らく同窓生諸氏のご協力も仰ぐことになる

と思いますが、諸氏の時代に果し得なかつた夢を是非現実のものとするために、絶大なご支援をお願いします。母校の発展のために又後輩のために、そして諸氏の教え子たちの教育のためにも、総力を挙げて完成させたいものであります。

最後に同窓生諸氏に協力したいと思つてゐることがあります。短音は二十二年、音大は十九年の歴史を重ねました。諸氏は既に立派な社会人として指導者として音楽教育に携わつておられます。我々大学人は皆さんが、各分野における悩みや問題をどしどし提起していただくことを期待しており、少しでもそれらの解決に力を尽すことができたと思つてゐます。又最近は同窓生の教え子たちがたくさん育つてきており、その人たちが高校音楽科や短大・音大を目ざす年令に達してゐます。我々は夏冬期受験講習会や入学試験を通じてそれを実感しています。勿論その中には優秀な者も多いですが、もっと早い段階から適切な指導なりアドバイスをして上げられたら

ら飛躍的に上達するだろうと残念に思うこともあり。こういう人たちのために我々は協力してあげたいと思ひます。

入試そのものは当然厳正なものでありますし、同窓生の教え子であるからといって特別な扱いはできません。全受験生に対しては公平・無私であらなければなりません。ですから少しでも早い段階から責任をもつて指導助言をして上げられたら、かなりの数の孫弟子たちが本学に入学することになるのではないのでしょうか。ここで申し上げてゐるのはブライエトレッソンのことではなく、大学の責任において指導者を派遣し指導育成するということシステムを確立したいということ。既に三か所で本学の音楽教室がスタートし、定期的に教員が出張してゐますが、今後このシステムを確立強化してゆくべきだと思ひます。同窓会の組織をより固めていただき、各県あるいは各地方ブロックごとに作陽音大の音楽教室を設けることについてのアイデア提供と協力を切望します。このよ

うな企画やシステムは私学だからこそ可能であり、それが同窓生と大学を結ぶ大きなパイプになると確信します。これからお互いに力を合わせて、名実ともに揺ぎない堂々たる作陽音楽大学として発展させ

大切にしたい出会い

教授 赤堀昌枝

たいものであります。終りに同窓生諸氏のご健勝と、益々のご活躍とご発展を祈りながら筆を置きたいと思ひます。皆さまの忌憚のないご意見を待つております。

作陽音楽大学の第一回卒業生を送り出したのは昭和四十五年でした。光陰矢のごとしと申します通り、今年でも十四年になります。この十四年の間に、大学も変わりました。すばらしいパイプオルガンを備えた八角形の聖徳殿が建ち、レッスンス室の設備も整いました。オペラ・オーケストラの演奏が出来る念願のホールが来年度工事定とも聞いてゐます。

生達に会う機会がありますが

生達に会う機会がありますが教職についてさまざまな悩みを抱えながらがんばっている人、自分の音楽教室を持つて子供達の個性を伸ばそうと努力し父兄からも信頼されている人の話を聞いてとても頼もしくうれしく思ひます。そして私自身、卒業生に、また学

皆様へ

助教 新田厚

新田厚

卒業生の皆様、如何、お過ごしでございますか？
吹奏楽団は、現在、総勢、九十余名。皆様、築いて下さった伝統を、しっかりと守り、着実に、歩んでおります

ので、御安心下さい。
今年で、津山定演（九月六日）は、第十六回目になります。中村平元学部長をはじめ、佐倉先生、椿先生、故三原先生と立派な先輩の後、私が、

生達の若さに負けないようがんばらなくてはという気持ちにさせられます。
一つ一つの出会いをこれからも大切にしていきたい、とそう思つてゐます。
七月九日から、大学では一週間の前期実技テストが行われました。自分一人の練習では、あれほどすばらしい演奏ができたのに、試験場では思うように演奏できなかったとき

第四回定演から、指導を引き継いでいますが、大学の発展とともに、世帯も大きくなり、又入学してくる学生のレベルの向上もあり、西日本では、唯一の誇り高い吹奏楽団として前進しております。

昭和四十八年より、岡山公演をはじめとして、九州、四

国、山陰、西幡と各地に、演奏旅行を毎年企画し、好評を博しているのをご存じますが、これも、皆様方の御協力の賜物と、感謝しております。この紙面を借りまして、厚く御礼申し上げますとともに、平素の御無礼、又今日までの御無礼をお許し願いたいと存じます。

今日吹奏楽界隆盛の時期皆様には、コンクール、演奏会、クリニク、講習会と、数々の行事の中、大変御苦労が多いかと存じます。特にバンドの良し悪し、出来不出来は、指導者の責任ですので、直接指導をされている

上岡洋一よりあなたへ

作曲 本学講師

卒業生の皆さん、元気で過ごしていますか。じわりじわりと発展していく学園の中で、私どもも教育と研究にインソルンでいます。さて、私こと吹奏楽界のキサイ上岡洋一は、一九七六年の「秋空に」(J.B.A.又は千修出版より発売中)に続きまして、またもや一九八一年の日本吹奏楽指導者協会作曲賞(下谷賞)を「北海岸線」という題名のマーチで受賞し、このほど、研究紀要にて、ミニチュアスコアが印刷できました。これもヒトエに、皆様の、そしてわけても在学中に試演に参加して下さい

った方々のゴシエンの賜物と、ひたすら感謝致しております。この感謝の気持ちを込めて、全国に先がけて皆様に優先的にこの曲を知っていただくために、無料で、総譜をおわけしようと思いましたが、吹奏楽が今日の形態になった時には、もう音楽が音楽史の中でよれてしまった時代だったのですね。このために、吹奏楽が他のジャンルの音楽からとり残されたり、接点を持たなくなってしまうたら寂しいことになるなあというのが今の私の心配ごとです。吹奏楽にふるさとなる曲を、これ

がこの曲の目的です。現在、吹奏楽に関わっている方もそうでない方もどうぞふるってこの楽譜をご注文下さい。なお、印刷部数が少ない関係で、一部の方にはそのコピーを送りすることに出来るかも知れません。そこで優先順位を決めるためにクイズの形式をとらせていただきます。応募葉書に「北海岸線」送れと明記の上、合言葉として、この文章中の全てのかたかなの部分に漢字に直して書いて下さい。住所・氏名・電話番号等もお知らせなく。あて先は左記の通りです。お待ちしております。

〒708 岡山県津山市八出 一三三四の一
作陽音楽大学鶴声会

方は、大変だと御察しいたします。しかし、作陽音大出身者は、大丈夫！どんな、困難な事も、見事に克服され、根性ある指導者として、立派に活躍している様子で、私共も、安心しています。

もつとく音楽に厳しく、少々では、へこたれない指導者作りに、私共も、これから、頑張つて精進いたすつもりであります。

現在、吹奏楽団では近い

将来に、吹奏楽団OB会を足させるべく準備いたしております。

OBによる演奏会の企画をしたり、歓談の場を設け、皆様にとりまして、大学にとりまして、有意義な会を開催すべく、努力いたします。その折は、どうぞよろしく、お願いいたします。最後に、くれぐれもお体を大切にしてください。

こんなホールが建ちます

管財課長 藤本信男

開学以来、学生教職員の願望であった音楽ホールの建設が、先の理事会で決定されその雄大な姿が、音楽大学キャンパス内に現われる日を待っているが、建築内容については大体次のとおりである。

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造り

階数 地上四階地下二階
高さ 二九・二二六メートル

建築面積 一五〇七・八一平方メートル
延面積 三五四九・四八平方メートル

客席数
一階 三一八席(九六)
二階 二二三席
三階 一七〇席

()内の数はオーケストラピットを客席として使用した場合。

合計八一七席

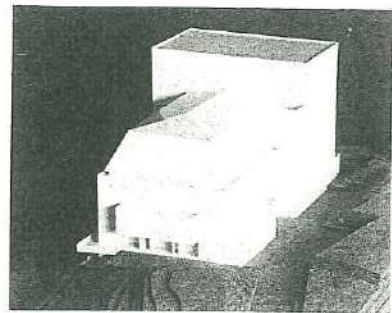
地下一階 事務室、控室、楽器庫、練習場
特別室
地下二階 主に機械室
ステージ 五七〇平方メートル

このホールはオペラ公演可

能なホールで、音響、照明等についても最高の研究をつけている。規模設備共に西日本では他にみない、音楽大学にふさわしいホールになることを期待している。工期については、本年末に着工して昭和六十年度末に完成の予定である。

はじめましてAUFです

五十二年卒 高見恒代



作陽音大出身者から成る木管五重奏プラスピアノのアンサンブルグループ「アウフカマームジーク」です。卒業後それぞれに仕事をもつていますが、何か手ごたえのある音楽がやりたいという気持ちでふくらんで集まりました。結成は今年一月で旗上げコンサートを二月にやりました。大学は春休みだったのでおもに市内の高校生、一般市民が対象でしたが、こつこつと地道にやっているグループもあるんだなあと、ほんのりあたたかい反応をいただきました。



二回目のコンサートは七月十五日です。より充実した美しいアンサンブルをめざし、今

強化練習の真っ最中です。ここで、メンバーとプログラムを紹介いたします。フルート 正木公美子(十一期生) オーボエ、菅付晃宏(十四期生) クラリネット、大久保裕文(十三期生) ファゴット、高野康雄(十期生) ホルン、吉市幹雄(八期生) ピアノ、高見恒代(八期生) プログラムは、ヴィアルケール作曲、オーボエとピアノのためのソナタ、モーツァルト作曲、ディベルティメント、プーランク作曲、フルートソナタ、イペール作

がんばっております

五十六年卒 野々下豊彦

曲、三つの断章、トゥイーレ作曲、六重奏曲、以上です。おもな活動は、定期的なコンサートと依頼演奏です。おかげさまでばちばちと依頼演奏の方もお声がかかりだしてきました。まだできたばかりのグループですが、作陽音大のあるこの津山の地に、根強く地道な活動を続けていきたいとメンバー一同はり切っております。皆さん、津山へおいでの際はぜひAUFをお訪ね下さいませ。

諸先生方、同窓会並びに後輩の皆さんお元気でいらつしやいますか、私は現在広島交響楽団のホルン奏者としてがんばっております。広響に入団して4年目になり、やっとオーケストラの仕事に慣れたように思います。そして最近やっと音楽は楽しむものだと思うようになりました。この度、渡邊先生を音楽監督兼常任指揮者に迎え、希望

時に感じましたことを少し書きたいと思います。在学生の皆さんには少し耳がいたいかもしれません……。少し大学全体に活気がないように感じました「個性的」な学生が少なくなったのかもしれないですね。「変化のある学生生活」「目標のある生活」それに「チャレンジ」する気持ち、自分で自分の道を見つけてほしいと思います。音楽には終りはないのですから。私は自分の音楽に満足することはほとんどなく、いつも反省の連続です。常に目標をもって、「いい音楽」「楽しい音楽」と思っております。

を新たに広響共々喜んでおります。これを機に津山での広響演奏会が実現することを願いたいものです。ところで私は先日約二年ぶりに津山を訪れました。その

私が現在に至ったのは、すばらしい先生方や先輩方の影響が大であります。作陽音大には渡邊先生を始めすばらしい先生方がたくさんおられることを誇りに思っています。今後とも作陽音大と同窓会の発展を心から願っております。

同窓生として思うこと

四十六年卒 山本誠子

(旧姓 辻)

第二期生の私は、卒業後三年間作陽高校の音楽科に勤務

しました。結婚後は、大学に非常勤講師としてお世話になつていきます。

母校に残り、レッスンをしているとしても嬉しくなる時があります。一つは、自分の母校(福岡雙葉学園高等学校)の卒業生がレッスン生に入つて来た時です。そして、九州出身の新入生が入つて来た時も、同じような親近感をいだくのです。結婚したのですから、本当はもう岡山県人と云うことになるのですが、まだまだ里が恋しいのでしょうか。不思議ですね。そしてもう一つは、同窓生が送つてくれた新入生に会つた時なのです。今年は、教え子の教え子がレッスン生に入つて来たのです。こんなことは初めてなのですが、我ながら卒業して十三年の重さを感じ驚きました。

どのレッスン生も、自分の後輩なのです。卒業するとき、作陽に来てよかつたなあと思つて鼻立つてくれるようにお相手しなければと、いつも思つていきます。

まだまだ歴史の浅い私達の母校です。卒業生の力を大いに生かし、学園を支え、学園との連帯感を持つて、同窓会も成長していかなければ……と感じています。

それから、私は同窓会本部の幹事をお引き受けしております。何なりとお役に立ちたいと思つておりますので、今後の同窓会運営のために、ご意見、ご要望がございましたら、どしどしと本部まで、お申し出ください。会員の方の近況などもお寄せください。お待ち致しております。

なつかしい津山

五十二年卒 下田 琢己

さわやかな初夏の季節となりました。

諸先生、同窓生、在校生のみなさま、お元気で御活躍の

ことと思います。私は、現在広島に住み、広島交響楽団でオーボエ奏者として勤めています。

広島交響楽団へ入団して八年目になります。大学時代からオーケストラで仕事をしたいと思つていたので、オーケストラに勤められて大変幸せに思つています。

ところが、いざ入団して、いろいろと仕事をしてみると大変でした。入団したての頃などは、とにかくいつも緊張の連続でした。なにを吹いてもうまくゆかず、大学時代はなにを勉強していたのだろうと思つた時がありました。そうしてだんだんオーケストラの仕事にも慣れてきたら、今度は、演奏会に来てくださるお客様に対して、いろいろ考えるようになりました。とにかく演奏することのむずかしさを、痛感しています。

先日、同窓会のお世話をしていた先輩から電話をいただきました。こうして書いていますのですが、諸先輩方をさしおいて、私がこうして書くことは気がひけるのですが、恥をしのんで書いています。

先輩からの電話で、久しぶりに大学時代、津山の思い出がよみがえり、今まで忘れた

わけではなかつたのですが、急に懐かしい思いでいっぱいです。大学生活というのは、大変いいものであつたように思います。また、津山という所は、大変環境のいい町で、四年間勉強できたことをありがたく思っています。卒業してから、何度か大学へ行ったこともあるのですが、最近は全く行く機会がなく、大学もかわつたのではないかと思つています。

機会があつたら、是非行つてみたいと思つています。今思い出してみても、私が在学していた時のままの大学が思い出されるわけで、同級生の

顔がその時のままです。でもみんな家庭をもつたりして、活躍していることと思います。是非会いたいものです。

在校生のみなさん、毎日レッスンに頑張つておられると思います。大学時代に勉強できる時は欲をだして勉強したいと思つています。自分で勉強し努力したことは、卒業してから、なにかの力になると思っています。目標をもつて、頑張つて下さい。

新しい仲間を望む

五十一年卒 永幡 千鶴 (旧姓 高田)

毎年、桜だよりの聞かれる頃になると、今年こそは、あの鶴山公園にもう一度行つてみたいと思つて、それも実現しないまま、七年間が過ぎまわりました。

卒業生の皆様、お元気でいらつしゃいますか。同窓会名簿やお便りをいただくたびに

皆様、どのようにお過ごしかとしばし家事の手を休めて、なつかしいお名前と顔を思い出しております。

さて卒業以来七年間、兵庫県明石市立大久保中学校に勤務しておりますが、一日が三十時間位あればよいと思うほど忙しい毎日です。先輩にあ

たる西川政宣先生も、同じ職場に勤務されていて、心強いかぎりです。

最初の二年程は、無我夢中で過ぎていきました。学生という立場から、いきなり百八十度違う立場にたつて、とまどったことも色々ありました。学級経営でなやみ、すばらしい実践記録をむさぼるように読んでいました。どうすればそんなにうまくいくのだろうと、自らの力のなさに、イライラしたこともありました。

まだまだ未熟ですが、もし、教師になつていなかったら、自分は、こんな考え方や、ものの見方をする事ができなかっただろうと、少しは成長したような気がいたします。

そして、三年目位までは、本当に充実した思いで、過ごしてきましたが、結婚、それに続く出産、育児休業を終えて、約一年ぶりに職場復帰した時に、子供の変化に目をみ

はりました。生活のくずれや無気力を全身であらわしている子供たち。それと平行するかのようには、だんだん歌声は小さくなっていきました。そして音楽以前のことで、指導しなければならぬ事がふえてきました。「すぐれた集団は、すぐれた文化をもつ」ということを自分にいいきかせながら、試行錯誤しているこの頃です。

今、教職をめざして頑張っている学生のみなさん。真面目な優等生であるだけでは、やっていけません。自分の生き方を通して、子供に何かを感じさせるような人になってください。そのために、色々な勉強や経験をつんでください。と同時に、より一層、音楽に磨きをかける努力をしてください。そして、みなさんの中から、私たちの新しい仲間が誕生することを心から望んでおります。

教職七年目

五十三年卒

花岡道義

私が大学を卒業したのが今

から七年前、月日がたつのが

非常にはやく感じます。教師になつて一年目は、何が何やら全然わからず、そんな自分が情けなく、毎日が自由だった学生にもどりたいとよく思つたものでした。

生徒数七〇〇名余りの中学校でしたが、音楽の教師が私以外にもう一人いて、新米の私は音楽と社会を受け持たされ、毎日が社会の教材研究の連続でした。そして五月に

吹奏楽部を発足させました。が、集まってきた生徒は一五名、未経験者ばかり、楽器はないので、あちこちの学校から借りて何とか活動していました。しかし、二、三年とたつにつれ楽器もそろい部員も増え、五年目にやっと宮崎県のコンクールで金賞を受賞。そしてその年に念願の第一回定期演奏会も開催することができ、部活も充実していきました。この頃は部員も六〇名、楽器もほとんど揃い、私自身も毎日が充実していたようです。六年目、コンクール金賞、第一回定演。

教師にとって大切なのは、生徒と同じ苦しみを味わい、同じ緊張感を覚え、同じ感動

を味わいながら生徒と共に成長することだと考えます。私は吹奏楽部という一つの部活動を通して、生徒にとって教師にとって大切なものを学んだように思います。もちろん、教師にとって一番大切なのは授業ということとは言うまでもありませんが……。

今年四月、私は宮崎県でも一番のへき地校に赴任しました。前任校での経験を生かしながら教師生活に励んでいきます。全校生徒九名という信じられないくらい小さな山間部の学校です。へき地校の特徴ですが、教師一人で複数の教科を受け持たなければなりません。私の場合、数学、体育、技術、音楽の四教科を受け持っています。音楽以外は全部免許外ですので、教材研究の大変さはわかってもらえ

ると思います。ただし、生徒が非常に素直、純朴ですので

大規模校のように生徒指導に追われることが全くといっていいほどありません。ここでも前任校のように生徒と共に歩むことを忘れずがんばりたいと思つているところです。

さて、近頃TV等で大学生の生活ぶりがよく放映されていますが、私の学生時代をふり返つてみると、「よく遊んだ」の一言です。当時は何も考えなかつたのでしようが、今思うと、あれほど、使いきれないほど自由な時間があつたのに、なぜあの自由な時間を有効に使えなかつたのだろうと後悔の念でいっぱいです。

私達のおとに続く後輩の皆さん、時間を有効に使ひ何事にも熱中して下さい。卒業までもできるだけたくさんのお事を学び、視野を広げておくといいですよ。私のように後悔することがないように……。

私の職場

四十九年卒

山下武

津山に住みついて15年、大学に勤務して10年が過ぎよう

としていきます。さて私のレッスン室は大学

の西館という建物の3階にある第2アンサンブル室という所です。その部屋の窓からは津山市街が一望できて、ちょっとした展望台ですが、部屋の中はといいますと数多くの打楽器がところせましと散乱し、足の踏場もないほどです。

私が入学した頃は楽器も少く、専攻生も数人しかいませんでしたが、今では楽器の数も数えきれないぐらいあり、日本のどこの音大にもひけをとらないと自負しております。打楽器の専攻生も新入生3名を含め総勢11名とにぎやかになり、毎日レッスンをアンサンブルにと明暮れているこの頃です。

NHK交響楽団打楽器奏者今村三明氏の指導のもとに作陽パーカッショングループを結成してから今年で早くも13年になりますが、毎年秋に定期演奏会を津山文化センターで行ない、一年間の勉強の成果を皆様に見たり聴いたりしてもらっています。私もまだ現役で学生と共にオーケストラ、吹奏楽団、作陽パーカッショングループ、その他の演奏会に出演しています。自分

ではまだ若いと思っ
ています。が腹は出てくるし、体重は増えるばかりでやはり歳をとったかなとつくづく感じています。しかしまだまだ学生には負けませんので、毎日学

学生時代の思い出

四十六年卒 仲 芳美

生のない時に秘密練習をしていました。これからも大学と鶴声会とわが後輩達のためにOBの一人としてがんばって行きたいと思っ

作陽音大を卒業してから早くも十三年が過ぎました。青春は遠くに去りにけりという感を寂しく感じるこの頃です。

私が入学した頃は、あの桃山の丘には体育館がデーンと構え、横に事務局のある棟(本館)と練習室二棟(現在のピアノ練習舎)があるのみで、現在のような桃山を埋めつくすような姿とはまったく違ったものでした。高校前の吉井川の提防は工事中で、河原の石がゴロゴロした道路らしいところを歩いて登校して、わずか二ヶ月で皮靴がボロボロになった思い出は今でも忘れません。また教室は二部屋(一期生の教室と二期生の教室)だけで、学生が移動することもなく授業を受けていま

入学直後の思い出としては、大学オーケストラの披露演奏会をするというところで、一度もレッスンがないうちにオーケストラに入れられ、中村平先生の指揮でわけもわからずバイオリンを弾いたことです。先生方の顔もよくわからず、弾き方が悪いと注意され反発をしたものです。とにかくまだ音大としての機構ができていない状態であり、大学と学生が一体になり音大作りをしていた時期でした。

私は在学中二年間学生会の副会長を務めました。様々な問題が山積しており、役員の間で徹夜で議論したことなど思い出は尽きません。中でも学長や理事会と幾度も話

合い「作陽学園大学」という当時の大学名を「作陽音楽大学」に変更したことや、学部の校章作り、学生名簿の発刊、学生会会則の整備、県人会作り、購読部、食堂設置、体育館運営をめぐる高校との交渉、吹奏楽、室内楽、オーケストラのカリキュラム内への位置づけ等、音大で学ぶ学生の環境基礎づくりに奔走したのも記憶に新しいところ

三回生、四回生になるに従って当然、教官、学生も増え、大学も充実してきたためか、本来の学生生活に戻り、演奏活動に力が入るようになり

ました。やはり、創設期の大学の未来に対する目的意識を抱いて活動していた頃が思い出であり、又そのときの多くの経験が、実社会の中で役だっています。現在では、施設、内容共充実し中央の音大にもひけをとらないほど立派になりました。しかし学生諸君には失礼だが、自分たちで大学を作っていくのだという目的意識が非常に薄いのではないかと思います。がんばってもらいたいものです。

さて、福岡県の支部の状況ですが、以前は福岡県同窓会を組織していましたが、事情があり解散した状態になっています。

昨年より北九州地区で大学教官の蓮井君を中心に組織作りが始まっています。今年の七月にはジャン・ミコー氏を呼び演奏会を開催しました。卒業生も二百名を超え、大所帯の福岡県ですが、県全体としては、組織できずいます。支部作りの意義を検討しながら一日も早く組織したいと考えています。

組織活みの支部より、いろいろアドバイスいただければ幸いです。又、福岡県在住の卒業生の皆さん、ご意見をお寄せ下さい。(連絡先) 八三九〇—久留米市安武町武島一八七の三 TEL〇九四二(二六)四七九七

転勤やご結婚で住所変更される方は、すみやかに必ず書面で鶴声会事務局にお知らせ下さい。

カナリヤにならぬよう

五十二年卒

野田友子

(旧姓 甲斐)

現在、熊本市内から車で約一時間四十分、阿蘇の大自然を横目に見ながら、大観峰という外輪山の中の峠を越え、大分県との県境の小さな町、小国という寒村に住んでいます。四方八方山に囲まれ、夏は涼しく冬は厳寒という環境の中で、早四年の月日がながれました。

ここは温泉の豊庫でもあり、ちよつと足を伸ばせば湯煙がたちこめ、のどかな雰囲気か漂っています。都会と違って人の情は厚く、また冬の厳しい生活に耐えている人々の真の強さに支えられ伸び伸びと生活しています。

さて仕事のことについてお話ししましょう。

この小国に来る前は、熊本より南に位置する松橋という町の養護学校に勤務していました。肢体不自由児対象で、脳性マヒ、小児マヒと手足の不自由な子ども達と音楽を通して関わってきました。障害

の重い子どもでも、一生懸命声を出したり楽器を演奏したり、心の底から楽しんでる様子がよくわかり、何かしら涙のことが度々でした。自分の過去をふり返り、何と贅沢に、我が儘にすごして来たのかと恥じられ、子ども達の純粋さによつてずいぶん勉強させられたように思います。

さて松橋に三年おりました、その後小国へ来ました。小国もまた養護学校(精神薄弱児を対象にした学校)で、最近

は重度重複化し、いろいろな障害を併せもっている子ども達が増えていきます。自閉症児、多動な子、問題行動のある子どもなど、最初全く知識がないので接し方一つにしても戸惑いの連続でした。年を重ねる毎に、少しずつ精神薄弱教育の足がかりがつかめてきたところで、まだまだ勉強しなければならぬところがたくさんあります。また、いつのまにか音楽の教師であったの

にというブライドもなくなり、今では、子ども達と大きな声でうたったり踊ったり、童心にかえり楽しい音楽に浸っています。純粋に音楽を愛し、

純粋に表現してくれる子ども達、障害は違っても音楽は必要であり、人生の糧なのです。私自身、少しでもこの子等の為に薄いなながらも共に楽しめる音楽をもつていて幸せだったと痛感しています。決して華やかではありませんが、私はこの仕事を選んで本当に良かったと思っています。

この道に入って七年目、レクリエーションがあれば、アコーディオンをかついで伴奏しました、歌を忘れたカナリヤにならぬよう、職員コーラスをしたり、ママさんコーラスの指導などをして、私なりに音楽を続けています。

この文章を書きながら、学生時代の事がいろいろ思い出され、懐きさで一杯になりました。機会があれば津山へ足を運びたいと思っています。大学もずいぶん大きくなったと聞いておりますし、素晴らしい学校を卒業でき誇りに思っています。今後、益々作陽

音楽大学が発展し、素晴らしい人材がより多く誕生してくれる事を心より願っております。

昭和53年に卒業して、幸運にも大阪市音楽団に入団でき、早くも6年になろうとしています。

方法と努力

五十二年卒

小野川英和

(旧姓 近藤)

悔しい為にやっていたべき事は、卒業して社会に出た時、決してつべない、つぶされない根性と精神力を持ち、専攻している楽器で、決してくずれる事のない基礎技術を持つ事だと思っています。

大学で音楽を学ぼうとせず、音楽する為の「方法」と「努力」する事を学んでください。基本がしっかりしていれば、どこに行っても使ってもらえると信じます。

しかし、津山の田舎で大学4年間をのんきに過ぎた私にとつて、入団当時、自分がこの楽団でよい戦力になるかどうか考えた時、本当に悩んだものでした。

今になって思う事は、大学時代に外からの刺激がなかったのが一番苦労したところだと思えます。

いま在学中のみなさんに、後

とりとめの文章になりましたが、作陽の卒業生として、我が母校の益々の発展を願って筆を置きます。

「方法」と「努力」

「方法」と「努力」

「方法」と「努力」

「方法」と「努力」

姫路支部より

四十七年卒 伊勢田 豊文

昨年秋、作陽音楽大学オーケストラが、姫路に於いて演奏会を行なわれ、それを機会に名ばかりであった鶴声会姫路支部も活動を始めることになりました。

会員の皆が意欲的で一致協力し、この公演も大盛会のうちに終わることができました。

会員の中では、今年四月にやはり姫路に於いて「びあのおふるて」を結成されている方々の「ドイツ三大Bのタペ」など教育活動のみならず、演奏の方面でも活躍されています。

五十九年現在、会員数120名で兵庫県西播地区を中心に活動していますが、昨年初めて同窓会を開き、今年も九月に

第二回同窓会を開催する予定です。又、懐かしい顔との再会を楽しみにしています。

私は、姫路市立琴陵中学校の九年間の勤務を終え、今年四月より、姫路市立灘中学で教鞭をとっております。

目下、ブラスバンドの指導に情熱を注いでいますが、生徒からは、なかなか思う様なハーモニーが聴けず、指導の至らなさを痛感しています。

鶴声会の支部長という大役を仰せつかり、これからも、同会の発展に微力ではありますが、努力したいと思います。

最後にになりましたが、作陽音楽大学と鶴声会の今後の益々の御発展をお祈りいたします。

ジャンルを問わず幅広く

五十五年卒 近藤 世利子

大学を卒業して一年くらい過ぎた頃でしょうか。アマチ

ユアのジャズビッグバンドのコンサートに行きました。公

務員、セールスマン・お医者さん達で結成されたバンドです。聴く前は、どうせアマチユアだからたいした事ないだろうと思っていたのですが、

演奏が始まり、次々アドリブがまわり出すと、くやしき半分私には出来ないすごいものがある事に気がつきました。

この人達は自分でフレーズを作り、思いのまま、気分のまま自分を表現しているのです。

このバンドの中には、譜面もなかなか読めない人もいるはずですが、それなのに、しっかりと自分の心を楽器を通して表現しているではありませんか。

私は、シヨパン、ラヴェルなどこの人達から見れば非常にむづかしい譜面を読み、ピアノが弾けるわけですが、譜面をとりあげられると、もうお手上げです。暗譜した曲以外

なにも弾けないのです。その事の情け無さといえ、皆さんも思つてらっしゃるのでは、ないでしょうか。自分の思いのままリズムに乗って、自分の音楽、自分の歌がその場で

指先から出てくる。音楽の専門教育を受けた私のまねの出来ない世界を、一般のおじさ

ま方が楽しんでるのです。この時からです。私もピアノ一つで自分の音楽を作っていたいと思つたのは。

私はさつそく、このバンドのリーダーの所へ、ジャズを習いに行きました。このリーダーはトランペットの元日本のトップミュージシャンで、

今でもレコードを出すなど活躍しています。そして、レッスンののはじまりです。まず、

最初理論書をざっと見る事になりました。この理論書では、以前に勉強した楽典、和声などで説明してある事が、さらによく理解出来る様になつて

いるのです。皆さん必読の本だと思ひます。

そして、いよいよバンドに入ってもらい、実践の始まりです。練習の時、私は音大を出てるんだから少しは楽に出

来るだろうと甘い考えでいたのですが、それもつかの間、コードを弾くとついCでドミソを弾いてしまい、それじゃだめだと叱られ、リズムは悪いと言われ、冷汗ものです。次は、アドリブです。もうこの時は恥のかき通しです。私の指から出てくるものと言え

ば、映画音楽か歌謡曲といった感じで、どうみても他の人のフレーズが素晴らしく聴こえます。こうして悩んでいると、このバンドでソコを受け

持つギターの人が「そんなにしよげなさんな。今弾いているフレーズが幼稚な感じがしても、ちつともはずかしがる事ないよ。それが今の自分の

中にある音楽なんだから」と、言ってくれました。そしてその時気づいたのです。アドリブが出来ないと思つて、肩ひじ張つて頑張らなくても、少しづつ自分の中の音楽を広めて行けばいい。すなおに色々な音楽を聴き、その良さを吸収すれば、自分の音楽も幅広くなるんじゃないかと。そしておのずから、指先を通してそれが音になって出てくるんじゃないかと。

まだまだ本当に音楽を楽しむには時間が、かかりそうです。ジャンルを問わず、色々な人達から、色々な事を吸収し、本当に幅広く深みのある音楽を作つて行きたいと思ひます。

事務局だより

鶴声会は昭和四十五年、第一期生の卒業と同時に誕生し、十四年目を迎えております。その間、初代会長菊井勝氏に十一年間に渡りご尽力いただいておりますが、会員の増加、組織の改善等のため五十六年に組織を改め、五十七年度の総会で現会長中桐實氏に引継がれました。

新しい組織で特に改められたのは、鶴声会を実質運営する役員として常任幹事が会長の任命により誕生したことです。年間五、六回の常任幹事会を開催し、会長、副会長と共に運営に当たっています。

五十七年度来鶴声会の目標は、本会の主旨に沿って支部の確立、拡張におかれていますが、これは特に中桐会長の最も急務としている問題でもありますし、事務局としても情熱を注いでいるところで、すでに誕生している支部では自発的な演奏会の開催や、本学への演奏依頼等盛んに活動をしていきます。なお現在まで

同窓会館オープン

この四月に大学施設を貸与され、作陽音楽大学同窓会館として運営されています。同窓会の役員会や同期生会



はできませんのでご希望、ご意見等を事務局にお寄せ下さい。特に未だ誕生していない地区の会員の方の積極的な情報を期待しています。また将来は、鶴声会本部と各支部が連繫を密にし、一体となって会員相互のために、あるいは鶴声会、母校発展のために歩みたいと願っています。

などにも利用していますが、遠来の同窓生には宿泊もできるように準備しておりますので事前にご連絡の上、ご利用いただきたいと思います。また鶴声会事務局も同居し

(只六)四一六七八

各ブロックに作陽音楽大学音楽教室設置の動き

すでに八代(熊本)中津(大分)出雲(島根)に開設されている作陽音楽教室は本学教官のご協力と同窓生の熱意により順調に運営されています。この音楽教室は、あるは一都市といったようなブロック単位でまとめられ、その地域の同窓生が指導している生徒(特に音大、音高をめざしている)のために、同窓生の希望があれば実現しようというものです。鶴声会事務局としては他の地域にもこのような音楽教室が誕生し、大学と鶴声会の絆の一部として未永く成長することを願っています。現在皆様のもとに専攻を問わず進学希望の生徒さんがありましたらご一報下さい。

何人かのまとまった生徒さんがあれば専攻別に本学の教官を派遣して進学のためのアドバイスを含め、懇切丁寧な音楽の指導をしていただけの企画が現在展開されています。ご希望があれば遠慮なく申し出て下さい。

また、五十九年度の冬期受験講習会が十二月二十三日から実施されますが、進学希望の生徒さんがありましたら是非おすすめて下さい。そして「何期生の誰の生徒です」ということを、受講中主科実技を担当される先生に必ず伝えるように指示して下さい。講習会終了後直ちに担当の先生より受験の対策等、適切なアドバイスが得られるように配慮されています。過去においてや

やもすると薄れがちだった同窓生と大学の関係も、このようにひとつひとつ改善され、一体感を自覚できるところまでの方向が示されたことを皆様と共に喜びたいと思います。音楽教室と講習会の問い合わせは作陽音楽大学企画広報課(内線一二七番)までご連絡下さい。

受験講習会案内

冬期 12月23日(日)～12月27日(木)5日間

60年度入試

試験期日・出願期日

学幼推薦入試

出願期間 11月20日(火)～12月19日(水)必着

試験期日 12月21日(金)

合格発表 12月23日(日)

第一次入学試験

1月7日(月)～1月28日(月)必着

試験期日 2月1日(金)～2月4日(月)

合格発表 2月9日(土)

第二次入学試験

2月9日(土)～3月7日(木)

試験期日 3月8日(金)～3月9日(土)

合格発表 3月12日(火)

作陽音楽大学演奏会だより

作陽音楽大学交響楽団

倉敷公演

10月18日(木)午後6時30分
倉敷市民会館大ホール

●第18回定期演奏会

10月19日(金)午後6時30分
津山文化センター大ホール

△プログラム▽

モーツァルト

歌劇「魔笛」序曲

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲第五番

「皇帝」

チャイコフスキー

交響曲第五番ホ短調

指揮 渡邊暁雄

ピアノ 藤村祐子

●作陽音楽大学合唱団

定期演奏会

11月30日(金)午後6時30分
津山文化センター

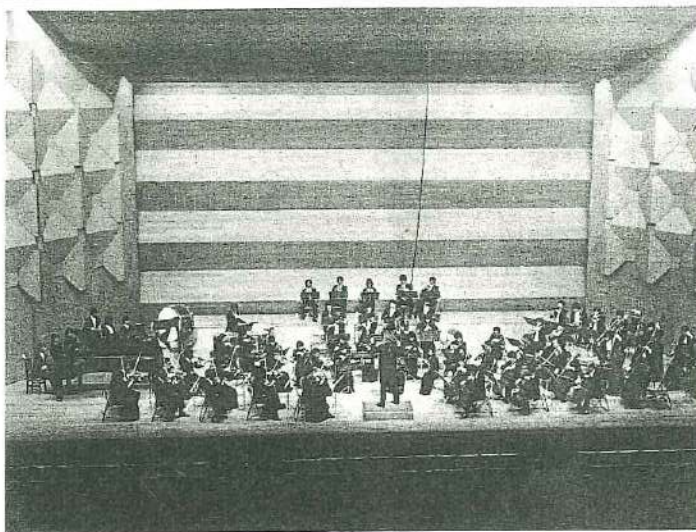
△プログラム▽

ブルックナー

「テ・デウム」ほか

指揮 渡邊暁雄

草下 実



〔大学祭情報〕
十一月一日午後(前日祭)
から四日まで。

編集後記

六月末から原稿を依頼して
からあまりにも長い月日がた
つてしまい原稿を寄せていた
だいた方には大変申し訳なく
思っています。そのため時制
が一致しない文章も多少ござ
いますが、その点をお含みい
ただいた上でお読みいただけ
れば幸いと存じます。また創
刊号ということで多数の方に
寄稿をお願い致しましたので
会報というより「文集」とい
った感じになりましたが悪し
からず。次号は来年になりま
すが「会報」らしいものをつ
くりたいとささやかながら考
えています。八月発行します
のでいろいろな情報をお寄せ
下さい。

会長から「一人でやるんじ
やけん、マアゆっくりやれエ
や」と言われて、本当にゆっ
くりやってみました。今
はただただ反省いたしており
ます。その私の本音を最後に
一言小さな声で大きくサケバ
せていただきます。

「ダレカテツダツテクレー
!!」??? (I・H)